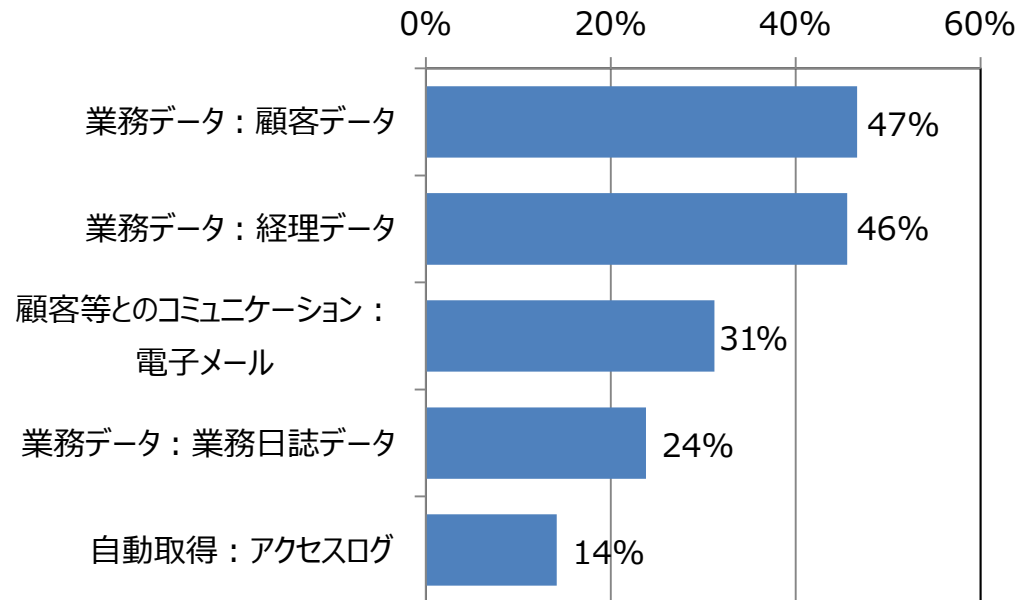


国内企業におけるデータ分析の実態

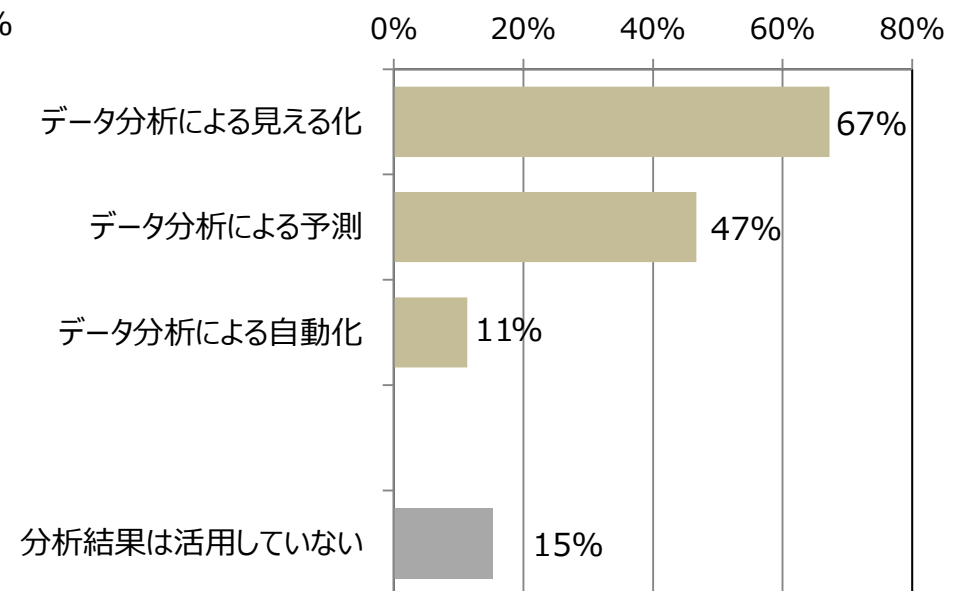
◆国内企業では「業務データ」を「見える化」するデータ分析の方法が、最も多くなっています。

- 総務省の2014年度の委託調査によれば、国内企業4,672社のうち72%の3,357社がデータ分析を行っています。
 - 本スライド下部の2種類のグラフはいずれも、データ分析を行っている3,357社が分母となっています。
- 分析に活用しているデータとして「顧客データ」、「経理データ」の割合が高くなっています。
 - いずれも意図的に取得したデータではなく、自然に集まる業務データとなっています。
- データ分析の活用方法として、最も割合が高いのは「データ分析による見える化（可視化）」の67%です。
 - 「見える化（可視化）」とは、図表作成などを行うことでデータを分かりやすく示すことを指しています。

分析に活用しているデータの割合（複数回答：降順上位5位）



データ分析の活用方法（複数回答）



【出所】ビッグデータの流通量の推計及びビッグデータの活用実態に関する調査研究 [総務省（調査委託先：株式会社 情報通信総合研究所）] に基づき作成
http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/linkdata/h27_03_houkoku.pdf

□ 自然に集まる業務データを活用し、見える化（可視化）して、分かりやすく表すことが分析の第一歩となっています。